

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	報告書作成		事業担当者
外部	評価全体のアドバイス 評価指標		外部評価アドバイザー

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

指標	目標値・状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
地域での防災訓練や防災に関する学習会への参加数	20人	2022年3月	18人



#### ② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li></ul> <p>と自己評価する</p>	

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	なぜ日本語サロンへの外国人参加者（技能実習生）は想定よりも少なかったのか	①新型コロナウイルス感染症の影響による日本語サロン実施地区の技能実習生の減少した ②土曜務の実習生が多くサロンに参加できなかった ことにより、参加者が想定よりも少なかったと評価する。	・日本語サロン外国人参加者：8人（内、技能実習生1名） ・技能実習生を雇用する企業への聞き取り（3社） 1社→0 2社→帰国困難のため延長滞在の実習生2～3名のみ  [考察] 日曜に野外での交流型のツアーを実施したところ土曜に参加できない技能実習生の参加につながった（4名）。新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、今後は日本語サロンの実践の場として、日曜日に野外での交流型の活動を定期的に行う予定。今後も実情の把握しながら企画することで改善につなげていく。
実施状況の適切性	アウトプット「日本人住民が外国人支援に関わる活動に参加している」の発現に影響を与えた貢献要因は何か	日本語サロンの実施による活動の場の発現、(公財)しまね国際センターとの連携であると評価	①島根県（しまね国際センター）の協力により、県の日本語パートナー（外国人サポーター）養成講座への参加者（雲南市民）の紹介を受けた。これにより、県の講座参加者は終了後すぐに実行団体での活動を開始。雲南市の多文化共生活動の担い手として継続して活動に参加している。（5名） ② 日本語サロンという活動の場
実施状況の適切性	地域自主組織が外国人を住民として意識し支援につながった貢献要因は何か	日本語サロン実施による外国人住民との関係性の発生と評価	日本語サロン実施で定期的に地区の外国人住民と触れ合うことにより、信頼関係が築けた。外国人住民の困りごとなど生活に関する生の声が届くようになり、自主組織が外国人を地区の住民として認識。地区活動の案内を出したりサポート活動につながった。

<p>実施をとおした活動の改善、知見の共有</p>	<p>事業対象者の学習支援環境のニーズは何か</p>	<p>当初日本語ゼロの外国人住民や外国ルーツの子どもに関しては他の活動への紹介などを想定していたが、ニーズに対応しきれないことがわかった。</p>	<p>〈対象者のニーズ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来日すぐ、日本語ゼロでも参加を希望</li> <li>・園や小学校で困難さを抱える子どもの支援</li> </ul> <p>〈考察〉 当初想定していない対象者をサポートするための活動が必要であることがわかった。</p> <p>対象者のニーズを満たすために新たに加える活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語ゼロの参加者のためのクラス</li> <li>・幼稚園や小・中学校で学習に困難さを抱える子どものためのクラス</li> </ul> <p>日本人や地域とつながる場（日本語サロンとして実施）に加え、上記の追加する活動について、事業関係者で合意した。</p> <p>適切な活動が事業計画に組み込まれたと評価する。</p>
<p>実施をとおした活動の改善、知見の共有</p>	<p>活動対象地区の多文化共生の地域づくりに対するニーズは何か</p>	<p>掛合地区では当初日本語サロンを切り口とした地域づくりを想定していたが、担い手がないことがわかった。</p>	<p>〈掛合地区自主組織のニーズ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのような単発の活動ではなく継続性のある活動の必要性</li> <li>・自主組織事務局から自治会役員や各委員への多文化共生意識の広がり。防災を含めた日頃からの関係づくりへの視点の共有</li> <li>・地域や関係機関（中学、高校、企業）全体での多文化共生の街づくりへの取り組み</li> </ul> <p>地域のニーズについて事業関係者で合意し、令和4年度の活動として「多文化共生啓発活動」を様々な対象に実施することとした。</p>

組織基盤強化・ 環境整備	助成終了後も対象者への支援を継続するために取り組むべき活動は行われているか。	対象者への支援を継続、ニーズへの対応するために取り組むべき活動は具体的に事業計画に含まれている。 ・関係団体とのネットワーク、協働 ・担い手の育成	(既に実施されている活動) ・担い手（日本語パートナー及びサポーター）の育成 ・関係団体とのネットワークづくり  (今後の取り組み) 政府の交付金を市と研究し、市としてしくみにすることを働きかけていく。また、これまでの地域住民の役割とは別に、専門性を持つ都市の人材をニーズに合わせて外国人住民とつなぎ、交流人口を増やしていく。
-----------------	--	---	--

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

### ○地域自主組織事務局の外国人住民への視点、態度、関係性の変化

事例1) A 自主組織ではこれまで国際交流員をゲスト講師に国際交流は行っていたが、地区に住む技能実習生など外国人に関しては住民としての意識がなかった。昨年度日本語サロンが始まり、定期的に外国人住民が出入りするようになったことで、名前呼び合う関係が生まれ、日本人住民と同じように地区の活動をはがき（郵送）で案内する動きが起きた。その後外国人住民はそば打ちなどの地区活動に参加し、日本人住民との交流が生まれた。

事例2) B 自主組織では地区に住む外国人住民 T を気に掛け、サポートする必要性を感じていたが、きっかけがなく何年も過ぎている状態だった。

昨年度日本語サロンが始まり関係性が出来たことで地区の活動を紹介。T の参加へとつながった。また、T の親戚で帰国困難者となっている外国人 3 名に地元企業でのアルバイトを斡旋（3名）。地元企業の面接に協議会と共に同席し、契約までの手続きをサポートした。

事例3) B自主組織からは、以前より外国人住民の支援に関する相談があったが、具体的な協働活動にはつながっていなかった。昨年度より実行団体である協議会と日本語サロンを共同主催し関係性が築かれたことで、今年地区に新たに入居した外国人家族について、入居前から情報が共有できた。入居後は自主組織の担当者が外国人家族と一緒に実行団体事務所を訪問。生活面や日本語学習サポートへとつながった。

事例4) B自主組織はこれまで外国人住民との直接のやりとりはなかったが、日本語サロンが始まったことで外国人住民の声が届くようになった。

帰国困難者の新型コロナウイルスワクチンチケットに関し、自主組織が市役所に問い合わせを行い、チケット申請へとつながった。

事例5) C自主組織では、これまで地区に住む技能実習生との交流の必要性を感じていたが継続していなかった。(過去に関係者で1度実施)

昨年度の水害時は交流センターに避難所を開設したが、実習生の避難に対しては課題が多く、日頃からの関係作りに再度必要性を感じるようになった。昨年秋の県主催の外国人住民のための防災訓練を実施により、日本人地域住民が直接技能実習生と訓練を行うことで、住民同士のつながりができたことが契機となり、この春、地区防災委員会で「外国人のための防災モデル地区に」

と

一致団結。令和4年度は防災を中心に多文化共生の街づくりを行っていくこととなった。

#### ○日本人の担い手が育成

事例1) これまで雲南市では国際交流活動や多文化共生啓発活動が行われていたものの、活動に関わった日本人住民がその後参加、活躍する場がなく、モチベーションが維持できない、つながりを維持できないことが課題であった。昨年度日本語サロンなどの活動がスタートしたことで、日本人住民が外国人住民と関わり、活躍する場ができたことで、担い手育成につながった。具体的には、日本人参加者が外国人参加者のコロナワクチン接種の書類作成補助などを手伝えるなど、生活サポートへの広がりが見られた。

## ○役所

事例1) 市では以前より多文化共生、外国人住民のサポートに関する担い手を地域に増やすことを視野に入れているが、具体的な担い手育成方法や広げ方に関しては進められていない。今年度日本語サロンなどの活動が地域自主組織内で起き、地域自主組織の外国人住民との関わりや外日本人住民の関りが始まったことで「地域でのスタート方法、広げ方のヒントとなった。日本人住民に活躍してもらうための日本人住民側のニーズや思いもわかってよかった」との声があった。

### ③ 事前評価時には想定していなかった成果

・事業対象地区である掛合地区では、当初日本語サロンを切り口とした多文化共生の地域づくりを予定していたが、担い手不足となり、啓発活動中心の活動に切り替えた。この地区ではこれまでも各団体により多文化共生に関する様々な取り組みが行われていたが、団体同士のつながりはなく、一回切りの活動で終始し発展がみられていなかった。昨年度11月の防災訓練や2月の勉強会の取り組みにより

各団体がつながり、外国人住民を含めた地域づくりについて共に考える一歩目を踏み出した。

・活動には日本人 UI ターン者の参加もあり、日本人参加者からも「地域に知り合いがいない。つながる場があり有難い」といった声

聞かれた。当初は外国人住民の支援、日本人住民の担い手育成といった目的で始めたが、日本人住民にとっても地域自主組織や他者とつながる場となったといえる。

・中学、高校、大学生がスタッフとして継続して参加。過去に日本語支援が必要だった外国ルーツの子どもたちの姿も見られた。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価を実施したことにより、主なアウトカムにつながるアウトプットの阻害要因を検証することができた。それにより新たなニーズや不足していた取り組みが明らかとなった。これを踏まえ、アウトカムとアウトプットの整理、指標の見直しを行った。今後はこれら調査結果を踏まえ、事業関係者との協議を行いながら今年の活動を具体化していく。</p>

添付資料

- 1.中間評価実施前の事業計画（必須）
- 2.中間評価実施後の事業計画
- 3.活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）